

千話一話 三・一・一その先へ

早坂 文明 著

# 被災地見つめる法話集

28年間、語り続けた重みを感じる一冊だ。宮城県山元町の曹洞宗徳本寺の住職である著者が行ってきた「テレホン法話」は、10月1日で1000回の更新を達成した。その節目に出したのが本書だ。取り上げた法話の数々は、

東日本大震災で住民636人が犠牲になつた地域の足跡をたどる貴重な記録でもある。

テレホン法話は先代住職の父を引き継ぐ形で1987年12月に始めた。月3回、時事問題を交えて仏の教えを説



く33分間の録音を途切れなく更新している。

これまでの著書で未発表だった法話39編を収録。震災後では2014、15年の更新分を紹介している。少しずつ

復興が進む中で悲しみに向き合う遺族の姿や地域の課題など被災地の現状を伝える。

「選びつづける」は、両親を亡くした男性が供養を続け、墓を建てた後に自ら命を絶つた話。「復興の兆しが見えても、被災者の心の景色はあの時のままの人もいる」と無念をつづる。

「『金目』では見えない」は、東京電力福島第一原発事故による放射性物質の除染作業が続く福島県飯館村の姿に「汚染土のうの一つひとつに詰まっ

ているのは、そこに住んでいた人の無念の想(おも)い」と記し、静かな怒りを示す。

節目の1000回目は表題と同じ「千話一話」。「今後も一話毎(ごと)の初発心を続けるのみです」との言葉に、この先も自然体で被災地を見つめ続ける静かな決意がにじむ。

著者は1950年山元町生まれ。99年に父を継いで住職に就いた。 蕃山房022(778)8679 1080円。